

一口メモ

ベロ毒素

細菌性腸炎の中でもっとも問題になるのは「腸管出血性大腸菌 O157」です。この細菌は牛の腸管の常在菌で、牛肉などの料理の時に加熱が不十分だったり、まな板・包丁・手指などを介して摂取することで感染します。

その名前の通り腸管内がひどくたたれ血便になります。子どもや高齢者は症状が強くなりがちで、ときに「溶血性尿毒症症候群」をおこして重篤になることもあります。

この大腸菌が作り出すベロ毒素が、こういった問題を引き起こします。O157以外にもいくつかの大腸菌が同じ毒素を作ることが知られています。

一度かかってしまうと大変。やはり「予防」がもっとも大切です。新鮮な食材の使用、十分な加熱、手洗い、調理具の清潔、調理品の適切な保管などに気をつけて下さい。

これは食中毒の予防対策そのもので、他のカンピロバクターやサルモネラなどによる細菌性腸炎の予防と共通です。

細菌性腸炎

子どもたちの下痢の多くはウイルス性のものですが、ときに細菌感染によっておきことがあります。

細菌性腸炎では下痢の程度が強く、血便になったり、腹痛を強く訴えたりしがちです。

全身状態が悪くなることもありますので、早めに受診して手当を受けて下さい。



世界の
子どもに
ワクチンを

日本委員会



細菌性腸炎

熱が出たり、腹痛、嘔吐や下痢がみられます。血便をみるとこも多く、ときに重症になります。

カンピロバクター やサルモネラ、病原性大腸菌、腸炎ビブリオ、エルシニアなどの細菌が原因でおこる腸炎です。カンピロバクター腸炎は汚染されたトリ肉、サルモネラ腸炎は汚染された肉や卵、あるいはミドリガメなどのペットが感染源となります。



治療

便の培養検査を行い、抗菌薬を処方することになるでしょう。嘔吐や下痢などの症状が強いときは、点滴や入院が必要になります。



家庭で気をつけること

- ① 食べ物：水分と消化のよい食べ物を与えましょう。くわしくは「下痢のときの食べ物」の項を読んでください。
- ② 入浴：下痢がおちついてきたらかまいません。シャワーでおしりをきれいに洗ってあげましょう。
- ③ 手洗い：手洗いをしっかりし、家族内での発生に注意しましょう。

細菌性腸炎にならないために

- 肉や卵は加熱してから食べるようにしてください。
- 生肉、とくにとり肉を調理した包丁やまな板をそのまま使って生野菜を切ったりしないでください。熱湯をかけ洗剤で洗ってから使用するのがよいでしょう。



こんなときは早めに診察を

- ① 嘔吐や下痢をくり返し、ぐったりしてきたとき。
- ② 腹痛が強まったり、血便が続くとき。
- ③ 高熱が続くとき。



次に受診するまでに

水分や食事の摂取量、下痢や吐いた回数、尿の回数などをくわしくメモしておきましょう。